

大学名：岡山大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	加盟を希望する地域の学校から具体的に相談があり、面談およびメールで対応した。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	できている。チャレンジ期間実施校も、加盟校のネットワークの活動に参加するようにして頂き、先進校の実践事例を具体的に学べるように支援している。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	できている。具体的には、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの活動としての各学校の実践発表およびエコプロダクツづくりのワークショップ、海外の大学生との交流会・コラボレーションの企画・実施を通じてそれぞれの「質の向上」にかかわる支援を行うことができている。 https://edu.okayama-u.ac.jp/promotion_center/news/
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ユネスコスクールからの要望に応じて、加盟校（岡山市立後楽館高校・岡山県立林野高等学校・岡山県立矢掛高等学校）の生徒対象の総合学習発表会において講演を行った。 https://www.yakage.okayama-c.ed.jp/wordpress/?p=32756
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	できている。2022年8月・3月および2023年5月に岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの教員を対象とした研修会を開催した。また、上述のように、県内の加盟校と協働し、2022年10月に学習会、2022年12月に実践交流会を開催した。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	岡山県ユネスコスクール高校ネットワークと協働で、ブルガリアのユネスコスクール加盟校とSDGsカレンダーを共同制作し、カレンダーをPDFとしてダウンロードできるようにもした。その制作段階において、様々なSDGsの学習とそれにまつわる実践の整理と共有、また双方の文化について学ぶプログラムを開発することができた。2022年の12月の実践交流会では、加盟校それぞれが取り組むエコやESDに関わる製品を持ち寄り、お互いに教えながら制作するという形式に発展させ、さらに海外で同様の課題に取り組む大学生とオンラインでつなぎ、コメントを送り合うなど、発展させることができている。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	RCE 岡山の主催するコースを対象としたESDおよびSDGs推進の企画に、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークを支援するOBOG学生スタッフを参画させるようにし、その際に県内外の様々なステークホルダーに向けて、ユネスコスクールの活動とその意義について、自らの経

		験を絡めながら発表することができている。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	まだ十分とは言えないが、学生スタッフの活躍により、ユース団体どうしのつながりが全国的に広がり始めている。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	岡山市教育委員会および岡山県教育委員会と連携し、ユネスコスクールの教員を対象とする研究グループの発足を目指して協議を進めている。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	上述したように、RCE のユースに関わる企画にユネスコスクールOBOG学生スタッフが参画することにより、その存在と意義について知らせることができている。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	上述したように、岡山市SDGs・ESD 推進課のサポートにより、ユネスコスクールであるブルガリア国立造形デザイン高校との交流を続けており、協働でSDGs カレンダーを制作し、ウェブサイトで発信し、配布することができている。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。 (例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	2023 年度もインドネシアの学校と繋ぎ、小学校 6 年生が総合学習で学んだ内容について意見交換し、交流を続けることができている。 また、2023 年 9 月には、マレーシアから ESD の研究で訪問した研究者と高校生がユネスコスクール 3 校（岡山市立後楽館高等学校・岡山県立一宮高等学校・岡山県立矢掛高等学校）を視察・訪問し、生徒らと交流した。RCE 岡山の支援および大学の助成金などを得て、それぞれの学校の特色あるプログラムや授業・部活動などに参加し、交流を深めることができた。 さらに、ユネスコ・バンコク事務所および ACCU が主催する「ユネスコスクールネットワーク（ASPnet）：アジア太平洋におけるSDGs 達成のための学校の役割に関する協働型アクションリサーチ」に参加し、岡山大学教育学部附属中学校と協働し、アクションリサーチやタイ国のユネスコスクールとの生徒間交流を実施できた。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	十分とは言えないが、教育学部の新入生のオリエンテーションの中で ESD・SDGs 教育コース（新設）を説明する際、それらについて触れることができている。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	担当する学部生向けの授業において、ユネスコスクール加盟校（学区）の取り組みについてその成果と課題について学び、実際に学生を現地での活動に参画させている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連し	できている。

	た調査研究を行うことができた。	
	4. 自由記述	